**年頭のごあいさつ**

　　　　　　　　　　（一）大田建設業協会　会長　堀　博彦

　皆様、明けましておめでとうございます。

 楫野大田市長様、野坂大田事業所長様を始めご来賓の方々、波多野顧問様を始め本協会員の方々、更にこの後　お箏の演奏をお願いする坂本様、旧年中は、当協会の事業に格別の協力をいただきましたことに対し、改めて御礼申し上げますとともに、本年の益々のご多幸、ご健勝を心からお祈り申し上げます。

　さて、いよいよ平成最後の年を迎えました。

明治維新以来、我が国は、明治、大正、昭和そして平成と、この１５０年間、内外ともに激動の時代を経てまいりました。

我が大田市も、終戦後の昭和２３年には、旧安濃郡、邇摩郡など３０近いとを併せて、約８万人の人口を抱えておりました。

その後、７０年を経て、昨年１２月の推計人口は約３万５千人と、当時の約４割にまで減少し、大田市の人口は、県全体の約５％となっております。

また、昨年の二度わたる大雪や震度五強の震災、更に豪雨災害にも見舞われたことは、皆様の記憶に新しいと存じます。

幸い、我々の業界を含め、大きな人的災害が発生しなかったことに日々感謝しているところです。

　一方、公共事業の動向を観ますと、全体的には、漸減傾向が続いておりますが、昨年１２月末現在では、災害復旧工事もあり、前年と比較し約３割を超える受注額となりました。

　これも、本日お集まりの方々のご尽力の賜と厚く御礼申し上げます。

　さて、昨今、内外ともに、大きな変動の時代を迎えております。

また、我が国全体の人口減少は避け難い状況ですが、地域間の良好なバランスを取り、この大田市域を住み易くまた将来的に持続可能な地域としていくうえで、一定の公共事業費の確保は、必要不可欠であると確信しております。

　島根県においても、「しまねの地方創生」を掲げ、「産業振興や雇用対策」、「働き方改革」などに積極的に取り組んでおられます。

大田市においても、市長さんを先頭に、ほぼ同様の方針で臨まれております。

しかし、これらの目標を実りあるものにしていくうえで、そこに住む住民の皆さんの安心、安全、更に安定した生活の確保が何よりも大切であると考えております。

そのため、我々建設業の担うべき役割は、極めて重いものと受け止め、これからも真摯に業務に当たって参りたいと考えております。

　さて、「亥（いのしし）」年は、「将来に向けて力を蓄える年」という意味があるといわれております。

 本年も、ご参会の皆様とともに、大田市民の安心安全な生活を守るため、事故のない活気あふれる一年となることを切に願うものであります。

平成の年号も、余すところ４ヶ月となりました。

新しい元号のもと、来年には新しい天皇陛下をお迎えし、「第７１回全国植樹祭」が三瓶山北の原において行われます。

かつて、昭和４６年４月の昭和天皇・皇后両陛下の行幸啓以来の重要行事であり、全ての大田市民にとって、たいへん名誉なことであります。

我々大田建設業協会としては、会員一丸となってできる限りの取り組みを行って参りたいと考えております。

　皆様方の益々のご発展とご健勝を祈念いたしまして、年頭の挨拶とさせていただきます。

　どうかこの一年、よろしくお願いいたします。